

－受彰決定の方々－

- 1 更生保護に関する学術的研究、広報宣伝又は先駆的・開拓的な活動において特に優れた功績のあった個人又は団体

御芳名	御功績の概要
宮川 憲一 (東京都)	<p>氏は、40年の長きにわたって、変わらぬ熱意と使命感をもって保護司活動に尽力するとともに、8年にわたり東京都保護司会連合会長の職にあり、全国随一の規模である東京都の更生保護のリーダーとして東京都における保護司活動を始めたこととした更生保護活動の推進に寄与し、また、更生保護法人全国保護司連盟副理事長として、更生保護法の施行等一連の更生保護制度改革の推進及び保護司制度の基盤整備等更生保護が抱える困難な政策課題の解決に向けて、率先して取り組んできた。</p> <p>さらに、更生保護法人東京都更生保護協会理事長として、平成29年3月、法人設立60周年シンポジウム開催時に、同協会の必要性について広く理解を求め、今後確実に必要とされている事業を行うために、皆で知恵を出し合い協力して行こうという意識が非常に高まり、同協会は賛同者が増加し安定した組織運営が可能となり、諸事業を持続的に展開できるようになった。</p> <p>以上のとおり、氏は東京都における功績はもちろんのこと我が国の更生保護事業の充実、発展に大きく寄与し、その果たした役割及び功績は極めて顕著である。</p>

- 2 他の範とすべき顕著な功績のあった保護司組織及び保護司並びに更生保護法人及び同法人役職員並びに更生保護女性会及び同会員並びにBBS会及び同会員並びに協力雇用主会及び同会員

御芳名	御功績の概要
旭川地区保護司会 (旭川)	<p>これまで各支部が実施している地域と密着した学校との連携事業を全面的にサポートし、PTAや民生児童委員とも協力しながら、多くの市民に対して社明運動の周知、認知向上を積極的に働きかけている。また、中学生の社明弁論大会は、今年で59回目を迎え、さらに地域の中学校全生徒を対象とした外部講師による講演会などをおして、安全安心な地域づくりの推進を図っている。</p> <p>放課後児童クラブ活動の子どもたちの学習意欲を高め、低学年のうちに防犯意識を養い将来の夢や希望を持たせるための子育て支援活動を、平成24年から各学校の理解と協力を得て、旭川更生保護女性会連合会や旭川BBS会とも連携しながら、市内全小学校を対象に展開している。</p> <p>平成26年から旭川更生保護サポートセンター内において月2回実施されている薬物やアルコール依存当事者が通所利用する「リカバリーセミナー」を、薬物事犯者の再犯防止の取組に積極的に活用し、保健・医療・福祉等関係機関と連携しながら保護司の処遇活動を側面から支援している。</p> <p>会員の面接技術力の向上を目指して発会したSST面接技法研究会の支援、育成を図り、12地区の保護司会の研修や沼田就労支援センターでのSST研修のサポートを積極的に行っている。</p> <p>平成30年度は、社明運動の一環として、映画「君の笑顔に会いたくて」を上映して、地域の方に広く保護司活動について理解と関心を深め、再犯防止の重要性、必要性、保護司の確保などについての啓発も行った。</p> <p>同保護司会は、地域に根ざした更生保護の一層の充実発展を目指し日々活動しており、その姿勢は他の保護司組織の範となるものである。</p>

御芳名	御功績の概要
<p>諏訪地区保護司会 (長野県)</p>	<p>平成25年9月、諏訪地区更生保護サポートセンター設置を機に、分区事業を地区に集約し会則を改め、更生保護の拠点として活かすため、「保護司の行う処遇活動への支援」「地域支援ネットワークの構築」「地域に根ざした犯罪・非行防止活動の推進」「地域への更生保護活動の情報発信」を4つの柱として事業の目的を明確に進めている。</p> <p>平成26年12月、再犯防止等に、関連機関が連携・協力し関係を深め、対象者のより良い処遇を実現するために、「諏訪地区更生保護関連機関連絡協議会」を設置した。</p> <p>平成29年7月から「非行・犯罪相談」事業を開始し、平成30年度は、法務省地域再犯防止推進モデル事業として、諏訪地区更生保護サポートセンターを活用して「生活相談窓口開設事業」を実施し、令和元年度は、同保護司会の独自活動として、引き続き同事業を行っている。安全・安心な地域づくりを目的とし、電話での予約制のもとベテラン保護司6人が交替で相談にあたり、保護司だけで解決が困難な場合は、専門機関につなぐこととしている。上記の成果として、関係機関の更生保護に対する認識が深まり、実際に関連機関につながり、きめ細かい助言、指導を受けるなどの処遇に生かされたケースがあり、この連携は処遇困難なケースに極めて有効との評価を得ている。</p>
<p>青木 勲 (栃木県)</p>	<p>氏は、現在、北関東総合警備保障株式会社会長及び栃木県経営者協会会長の要職にあるが、昭和63年から更生保護事業に参画し、本年度で満30年を迎えている。</p> <p>平成21年10月に、栃木県就労支援事業者機構を設立し、氏のリーダーシップの下、経済界の協力を得て積極的に活動を展開しており、平成29年度から、氏の強い意向により、県内全域の協力雇用主を対象とする研修会を保護観察所と共催で開催し、協力雇用主が刑務所出所者等を雇用する際の不安を軽減し、積極的な雇用に結びつくことに大きく寄与している。</p> <p>また、更生保護施設栃木明德会において実施されている「明德野菜づくり」に対し、同事業が開始された平成22年より、同機構から毎年継続して30万円を助成するとともに、障害者支援施設「かりいほ」での茶摘みボランティアや更生保護施設及び栃木ダルクの入所者に対する健康診断に際し、北関東総合警備保障の社用車や業務用大型バス(運転手を含む)を無料で運行し、支援している。</p> <p>平成29年12月から「林業プロジェクト」を立ち上げ、林業関係者の理解促進と協力雇用主登録の拡大を図った結果、本年度、保護観察対象者1名の林業への就労の実現を果たし、今後も、拡充していく予定である。</p> <p>氏は、経済人として会社経営を行うことに止まらず、更生保護と経済界の関係構築や栃木県の更生保護の充実・発展に多大な貢献を果たしている。</p>
<p>前田 葉子 (大阪府)</p>	<p>氏は、企業家として更生保護への重要性を認識し、大阪府更生保護協会の役員に就任すると、運営資金造成に積極的に関わり、役員会費に加え、毎年、100万円以上の高額寄附を現在に至るまで続けており、総額は、4000万円を超過している。</p> <p>また、協会の事業運営にも深く関わり、理事長を補佐し重要案件の意思決定に関与するとともに、企業家としての発想力と行動力を発揮し、更生保護法人泉州寮及び和衷会の施設改築時には、当時の協会理事長や役員等とともに、大阪府内の50社に及ぶ大手企業を訪ね、更生保護施設の改築の必要性を説き、総額4,200万円余の寄附金を受けることができ、改築が実現した。</p> <p>さらに、平成24年5月にNPO法人大阪府就労支援事業者機構の理事に就任し、同機構の事業運営に積極的に関与し、大阪府下の再犯防止推進に大いに寄与している。</p> <p>その他、地域における更生保護諸団体の活動に尽力している外、地域女性団体協議会や社会福祉協議会の役員を歴任し、地域の社会福祉の分野での活躍も顕著である。</p>

